

令和5年3月2日（木）「第12回 地域づくり小委員会」が開催されました。

■開催概要

「第12回 地域づくり小委員会」が令和5年3月2日(木)に釧路地方合同庁舎5階第1共用会議室でweb会議を併用して開催されました。小委員会には、委員31名(個人11名、団体12団体11名、オブザーバー1団体1名、関係行政機関7機関9名)(一部兼任)出席されました。

議事では、はじめに道東ホースタウンプロジェクト岡本氏から「かわたび×うまたびプロジェクト」、北開水エコンサルタント石黒氏から「釧路湿原における地域貢献活動」について、話題提供いただきました。

次に、令和4年度の地域づくり小委員会取組状況について、小委員会事案(カヌーポケット版の公表・広報施策の展開、農業事業者との連携継続、自然再生事業箇所での地域づくり利活用の推進)、委員事案の順に報告があり、それぞれに対する意見交換が行われました。



▲第12回地域づくり小委員会(令和5年3月2日)

■地域づくり小委員会とは(構成員(第11期前期):個人41名、団体28団体、オブザーバー5団体、関係機関9機関)

地域づくり小委員会は、地域産業と連携した湿原のワイズユースにより、湿原を保全・再生し、将来にわたり地域産業が豊かになる取組を進めるために設立されました。

今後は、賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方と、湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について、議論を進めていく予定です。

1 話題提供

■道東ホースタウンプロジェクト

○話題提供の概要

道東ホースタウンプロジェクトは、道東地域において「馬事振興」による「地域振興」を目的としたプロジェクトを立ち上げ、釧路川や釧路湿原を観光資源とした観光プログラムの開発に取り組んでいる。釧路川を移動(サイクリング、ホーストレッキング、カヌー等)すること自体が観光・イベントとなる新しい旅を提案するための実証実験を始めている。

○実証実験により分かった課題

- ・本プログラムの核であるホーストレッキングについて、馬の手配や移動に多くの費用が掛かるため、点在している馬事業者に参画してもらえるようなツアーにしていけることが必要である。
- ・釧路川の治水・利水に関する内容の強化、充実が必要である。

○意見交換

- ・よりツアーの価値を高めるため、釧路川の歴史に加えて環境保全に関する取り組みについて、考えていることはあるか。
- まずは、馬や釧路川・釧路湿原を活用したツアーにどのくらい魅力があるか検証している。検証を進めていく中で、観光を楽しむだけではなく、歴史や環境保全といった内容に関心を持つ観光客もいたことから、今後、意見も踏まえて考えていきたい。
- ・ツアーとして宿泊・食事はどのようなことを考えているか。
- 周辺に宿泊施設があることが望ましいと考えている。また、道東ならではの食を提供して、ツアーの充実化を考えている。

■北開水エコンサルタント

○話題提供の概要

北開水エコンサルタントは、水質調査、環境調査や堤防等の河川管理施設の点検等の業務を行っている会社である。業務内容の一つである河川巡視において、巡視区間にトイレを利用することができる施設が限られていることが課題となった。カヌー利用者等からもトイレ設置の要望が多いことから、地域貢献の一環も踏まえて試行的に仮設トイレを設置した。

○仮設トイレの維持管理

- ・利用実態を把握するため、設置当初は特別な清掃は行わず「利用者のモラルある行動による利用」を考えた。なお、以下の維持管理は実施した。

①汲み取り・洗浄液補充:月1回程度

②状態確認(破損、不法投棄、備品補充等):週3回程度

→利用者のモラルある利用により、懸念していた「河川環境・河川利用上、好ましくない状況(利用マナーが悪い、破損や盗難、不法投棄等)」は発生しなかった。なお、洗浄液交換のタイミングが想定よりも早く、臭いや便器内の汚れが一部発生する期間があった。

○意見交換

- ・河川管理者として河川法に基づき河川利用を進める一つとして、トイレ設置の第一歩をなかなか踏み出すことが出来ていない状況だった。地域貢献の一環でトイレ設置を実施されたこと大変感謝している。
- ・土地管理、河川管理、責任の所在、不特定多数が利用といったことが取り巻く中、ニーズの高いトイレは設置に向けた連携を行うとともに、持続的に使用できる仕組みが必要である。



▲話題提供の様子

写真左:道東ホースタウンプロジェクト

写真右:北開水エコンサルタント

2 令和4年度の地域づくり小委員会取組状況

小委員会事案、委員事案の説明に対して意見交換が行われました。

意見交換された主な内容

● 委員 ● 事務局

～カヌーポケット版の公表、広報施策の展開～

- カヌーポートに設置している入川届の箱は、使用されていない状態であった。そこで、カヌーネットワーク協会が個人情報遵守のもと、入川届申し込みフォームを作成した。カヌーガイドラインポケット版には、入川届・カヌーガイドラインを読み込むことが出来る二次元バーコードを追加したことにより、カヌー利用者が現地で釧路川・釧路湿原の自然を安全に楽しむことができるようになると考えている。
- 二次元バーコードを追加したカヌーガイドラインポケット版は、現在印刷中であり今後、一般に配布し、より安全なカヌー利用に繋げていく。

～農業事業者との連携継続～

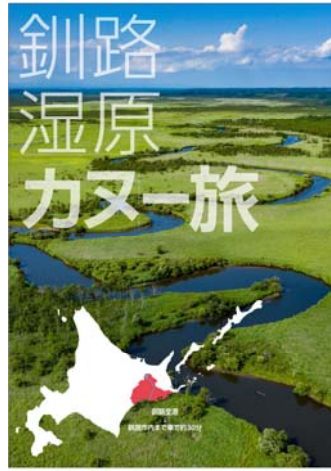
- 釧路湿原で行っている自然再生事業について、集水域全体でどのように保全、再生を進めていくのか、といった観点は重要であるため、農業事業者との連携は必要である。

～自然再生事業箇所の地域づくり利活用の推進～

- 自然再生箇所の利活用について、カヌーで釧路川を下る際に旧川復元事業を行った茅沼地区の蛇行河川付近で上陸し、見学できるようにしてみようか。
- 茅沼地区では、市民を対象とした現地見学会の際に蛇行河川上流端の右岸側に上陸して事業内容等を説明している。
- 自然再生工事が進められている幌呂地区について、小高い箇所から見渡せると観光として利用できるのではないか。
- 現状での小高い箇所は、自然再生箇所から遠いので鶴居村との協議も行い、場所を選定する検討を考えていきたい。

～委員事案～

- サイクリングやカヌーは、自分の体を使ったアクティビティであり、二酸化炭素の排出が少ないことから、カーボンニュートラルといった観点で、旅行に付加価値を付けることができると考えている。



◀ カヌーガイドラインリーフレット版
今後、釧路川・釧路湿原でカヌーが楽しめることを知り、行きたいと思ってもらうようなリーフレットの掲載内容の充実化を図り印刷、配布する。

▼河川敷地や湖沼の活用

河川沿いや国立公園内での、サイクリングやホーストレッキング等が出来ることで、釧路川や釧路湿原の魅力を最大限に活用することが出来る。
そのために、環境負荷にも配慮した上で河川敷地や湖沼を活用できる仕組みが必要である。



第12回地域づくり小委員会 [出席者名簿 (敬省略、web参加者含む)]

個人 [11名] 五十音順

内山隆	清水信彦	高崎優子	平間清
川西亮太	新庄興	中村研二	吉中厚裕
櫻井一隆	鈴木信	平岩誠	

関係行政機関 [7機関/9名]

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [菅野法之]
環境省 釧路自然環境事務所 [柳川智己]
北海道 釧路総合振興局 [後藤英徳]
林野庁 北海道森林管理局 [南達彦]
釧路市 [和田強]
釧路町 [渡辺裕二、大野誠也]
標茶町 [岩間洋明、中村理人]

オブザーバー [1団体/1名]

釧路商工会議所 [齋藤大]

団体 [12団体/11名]

こどもエコクラブくしろ [近藤一燈美]
株式会社日野組 [日野彰]
釧路川カヌーネットワーク [小川清史]
釧路観光連盟 [長沼大平]
釧路シャケの会 [渡邊雅貴]
株式会社釧路マシュー&リバー [斉藤松雄]
釧路国際ウェットランドセンター [和田強]
釧路湿原国立公園連絡協議会 [和田強]
公益財団法人 北海道環境財団 [山本泰志]
特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ [百瀬邦和]
国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 水環境保全チーム [柿沼孝治]
一般社団法人釧路観光コンベンション協会 [山田達也]

話題提供 [2団体/4名]

道東ホースタウンプロジェクト [岡本昌、岡本千恵]
株式会社 北開水エコンサルタント釧路支店 [平澤陽一、石黒大輔]

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

釧路湿原自然再生協議会
運営事務局

TEL(0154)23-1353

FAX(0154)24-6839